

●三位一体後第二十五主日

泉のほとり

今月の詩編「第三十七編」

主に従う人は、口に知恵の言葉があり

その舌は正義を語る。

神の教えを心に抱き

よろめくことなく歩む。



ステファノの逮捕

「信仰と聖霊に満ちていた」と聖書に証されるステファノ。彼は初代教会全体の中でも、特に聖霊のお働きを豊かに受け、神に信仰が認められた人でした。そのため使徒たちの目にとまり、食事や食料の分配、重要な奉仕を委ねられました。更に素晴らしい神のわざを行い、神が彼と共におられるしるしが民衆の間で表れていたのです。

ところが、外国出身のユダヤ人たちが立ち上がり、ステファノと議論しました。彼が霊と知恵によって語るの、彼らは全く歯が立ちません。自らの考えや知恵が否定されることに耐えられず、恨みや怒りを燃え上がらせていたようです。人々を唆し「あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くの聞いた」と偽りを言わせました。

人の耳には、多数の人の語る言葉が真実のように聞こえます。人は、人についての良い評判よりも、人を悪く言っている言葉の方がより聞きたいと思うのです。現代でもインターネット上で誹謗中傷が拡散されることが問題になっています。言葉によって振り回され、煽られ、操られてしまうことも多々起こっています。今も昔もこの人間性は変わりません。

惑わされた民衆、長老、律法学者たちがいました。ユダヤ人たちは、その人々を扇動し、ステファノを襲い、最高法院へと引いて行きました。またも偽証人たちを呼び寄せ、「この男が『ナザレの人イエスは、この聖なる場所を打ち壊して、モーセが我々に伝えた慣習を変える』と教えているのを聞いた」と真実を捻じ曲げて、訴えさせます。中傷、悪口によって、神を冒瀆した罪に問われるよう追い込みました。

人の言葉は、神の僕をも死に追いやってしまうほど、恐ろしいものです。いま巷では人の言葉が飛び交っており、中傷などを耳にすることもあります。しかし教会はそれに便乗してはなりません。聖書は「人を裁くな」

「人を悪く言うものは、決して神の国を受け継ぐことができません」と教えています。神の言葉を土台とし、人の言葉を鵜呑みにするのではなく、それが本当に正しく、真実な言葉かを確かめ、反芻する姿勢を持つていきましよう。

最高法院の人々が、ステファノに目を注ぎました。人々の目に彼の顔はまるで天使のような顔に見えたのです。暴力を振るわれ、偽りの告発を受け、死刑に追い込まれようとしても、憎しみ、恨み、怒りに満ちた顔つきではありませんでした。天使のような顔つきだったのです。

この後ステファノは人々に旧約聖書に基づいた説教を語り、そして最後に「あなたがたは預言者たちが来られることを告げていた正しい方を殺した」と真実を伝えるのです。人々は怒り狂い、彼に襲いかかります。エルサレムの外に引きずり出し、石を投げつけるのです。その中でもステファノは「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と祈っていました。まさに十字架の上で、「父よ、彼らをお赦しください」と真実に執りなされた主イエスのように、真実に執りなしていたのです。身に覚えのない悪口を浴びても、不当で残酷なこと受け、死に追いやられても、悪に悪を返しませんが。自らを迫害するものたちのために祈り、最後の最後まで神の顔を真実に生きたのです。

神はキリストに従って歩むものたちを、ステファノのような姿にまで造り変えようとしておられます。この世を生きている中で悪しき事柄に直面しても、恨みも憎しみも怒りも抱かない。天使のような顔つきで、人と争わず、やり返さない。天の眼差しを持って人を思いやり、人のために生きる。こうした天のものを授けようとしておられます。「天のものをわたしにも授けてください」と慕い求めていきたいと思えます。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

- 本日は教会記念日礼拝です。
- 主日礼拝の中で「礼拝のしおり」の終わりのページにある日本キリスト合同教会信仰告白をご一緒に唱和します。
- 交わりの会の後、定例役員会をカナルームで行います。

○ 吉村名誉牧師は、今日、韓国ソウルのサラン教会日本語礼拝で奉仕のため出張です。明日から木曜日までソウル説教セミナーで講師を務めて、金曜日に帰国の予定です。また新しい著書「イエスの歩み3」が教団出版局から出されました。ディアコニアショップでお求めください。

○ 次週一月二四日より、主日礼拝の中で詩篇交読を再開する予定です。

○ 主日予定表は次週配布します。

《教育奉仕委員会より》

今日は教会記念日礼拝です。礼拝後、地下ホールでみ言葉を分かち合う交わりの会がありますので、お集まりください。

《ぶどうの会より》

本日のぶどうの会は休会です。

《手仕事の会オリーブより》

一月二四日に、販売をいたします。手作りのアドベントカレンダーも新しく登場です。時間は、一〇時から一〇時二〇分までと、一一時四五分から一二時三〇分までの二回です。場所は事務所前の園庭を予定しています。よろしく願いいたします。（ケーキは二月八日に扱います）

《ルツの会より》

次週二四日、主日礼拝後に公開ルツの会を行います。出エジプト記一〜一三章を学びます。聖書・讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《ジュネーブ教会信仰問答》

第二十三聖日

問一四三 第二の戒めをいつてごらんさい。

答 あなたは自分のために、刻んだ像を造つてはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、地の下の水のなかにあるものの、どんな形をも造つてはならない。それにひれ伏してはならない。

問一四四 神はどのような像を造ることも、全く禁じようとなさるのですか。

答 いいえ。ただ神をかたどるため、あるいはこれを礼拝するために、どのような像を造ることも禁じられるのであります。

問一四五 何ゆえ神を、見える形に表わすことが、全く許されないのですか。

答 霊なる、永遠の、知りえざる神と、生命なく、朽つべき、目に見える有体物との間には、何らの一致もないからであります。

問一四六 それゆえ、神をこのように表わそうとすることは、神の尊厳をはずかしめることであるか、あなたは理解するのですか。

答 その通りであります。

問一四七 どのような礼拝の形式がここでは禁じられていたのですか。

答 祈るために像の前に出たり、その前にひざまずき、あるいはその他、あたかもそこに神がわれわれに現われておられるかのように、何らかの敬意を表する動作をすることでありませぬ。

問一四八 それゆえ、あらゆる彫刻や絵画が全般的に禁じられていると考えるべきではありません。

答 目に見えるものにおいて神に仕え神を敬うために造られた像、あるいはまた、偶像崇拜にみだりに用いるために造られたすべての像に限るのです。

その通りであります。

問一四九 この戒めの目指すところを要約すれば何ですか。

答 神は、彼が人の礼拝しなければならぬ唯一のお方であつて、他にはないことを第一の戒めで宣言なさつたように、今度、神はわれわれを、あらゆる迷信と肉の儀式とから救い出すために、どれが正しい礼拝形式であるかをわれわれにお示しになるのであります。

《今日の子ども礼拝》

説教 「教会を通して、主イエスと出会うために」

聖書 マルコ一章14〜15節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「大切なものはひとつだけ」

聖書 ルカ10章38〜42節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分)

讚美歌 354番 140番

説教 「杯を飲むべきではないか」

聖書 ヨハネ18章1〜11節

説教者 黄允湜 牧師





教会記念日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 12番 191番
説教 「キリストに結ばれて」
聖書 コロサイ1章24～29節(新約 P.369)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「いざやともに」 J.S.バッハ

○讃美歌12番

- めぐみゆたけき主を ほめたたえまつれ
そのみいつくしみは ときわにたえせず
すくわれしみたまよ おごそかにうたえ
あわれみとまことは かわることなしと
- なやみせまるときも み名をよばわれば
主はこたえたまいて この身をばすくい
いとひろきところ にいこわしめたもう
主ともにましませば われにおそれなし
- くつるものをすてて みくににあこがれ
ひとにたよらずして みちからをたのみ
わがすくい、わが主をつねにしたいつつ
よろこびのうたもて 御名をほめたたえん

アーメン

○聖歌隊による讃美

「主に感謝せよ」 G.F.ヘンデル曲

感謝せよ わが主に
主は海を 分かちて
み民を導く
主はわが羊飼い
み手もて
常にやさしく 導きたもう

感謝せよ わが主に
主は海を 分かちて
安らに導く
導き給え とこしえに

○讃美歌191番

- いとともうとき 主はくだりて
血のあたいても 民をすくい
きよき住居をつくりたてて
そのいしずえと なりたまえり
- 四方のくにより えらばるれど
のぞみもひとつ わざもひとつ
ひとつのみかて とともに受けて
ひとりの神を おがみたのむ
- 数多のあらいみ民をさき
世人そしりて なやむれども
かみはたえざる いのりをきき
なみだにかえて 歌をたまわん
- 世にのこる民 去りし民と
ともにまじわり 神をあおぎ
とわのやすきを 待ちのぞみて
君の来ますを せつにいのる

アーメン

聖餐曲「アリア」 J.S.バッハ

後奏曲「アレグロ」 A.ギルマン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。